『シャンティ』通巻324号　2026年11月1日発行（6・11月の1日発行）

SHANTI

シャンティ国際ボランティア会

2026.11
Vol.324
シャンティ



特集

未来を育む活動地の今
45年の感謝と、シャンティのこれから

巻末言

道

シャンティ45周年を迎えて

ドゥアン・プラティープ財団 上席顧問／
シーカー・アジア財団 副理事長
秦 辰也
シャンティ国際ボランティア会 副会長



写真上：プノンペン王宮内でイー・トンさんと
写真左：カンボジア事務所のスタッフと

今年、シャンティは設立45周年を迎えました。前身の曹洞宗東南アジア難民救済会議（JSRC）がタイに事務所を開き、始まったカンボジア難民救援活動を引き継いで以来、瞬く間の45年でした。私は24歳で現場に飛び込み、そこから42年が過ぎ、人生の大半を共に歩んできました。

この間シャンティは、世界情勢の変化に伴い、「共に生き、共に学ぶ」をモットーに活動地域や組織を広げてきました。45年前、今日のような地政学リスクや国際秩序の変動と、現在のシャンティの姿を誰が予測できたでしょうか。

カンボジア問題を契機に始まり、難民の人々が本国に自主帰還して35年が過ぎた節目に、私は長年プノンペンの仏教研究所にシャンティの職員として携わったイー・トンさんの著書『シャンティと私』を和訳・監修し、『カンボジアの仏教とクメール文化の復興』と題して明石書店より出版する運びになりました。本書には、シャンティが初期に難民キャンプで取り組んだクメール語仏教経典の復刻配布と、当時難民キャンプでは禁止されていた仏教寺院の建立をコミュニティセンターとして開き、図書館や伝統音楽・舞踊教室を支援した意義が記録されています。戦禍の中からカンボジアの国全体が復興するためには、仏教すなわちクメール人たちが喪失しかけた精神文化の再生こそが不可欠だったこと、そしてその歩みにシャンティが寄り添い、果たしてきた役割が克明につづられています。

再認識したことは、創設の中心にいて鬼籍に入られた有馬実成さんと松永然道さんはもちろん、無着成恭さんとときさんご夫妻、野村耕健さん、八木澤克昌さん、スコン・ジョンユーさんなど、「けものみち」を切り拓いた偉大な先達の不撓（ふとう）不屈の精神と、数え切れない人々とのご縁があってこそ今日のシャンティがあるということです。私にできることは「貧者の一灯」にすぎません。それでもその灯を絶やすことなく、これからも皆さんと共にシャンティを未来へつないでいく一員でありたいと思っています。



タイ国境難民キャンプのコミュニティ図書館にて（2023年撮影）©川畑嘉文

45年にわたり皆さまと共に歩んできたシャンティ。その歩みは、教育と文化を通じて人と人をつなぎ、未来を育む挑戦の連続でした。

活動地では支えられた子どもたちが地域を担う存在へと成長し、新たな世代へと希望が受け継がれています。一方で、世界では紛争や災害、気候変動など新たな課題が広がり続けています。変わらない理念を胸に、変わりゆく時代と向き合いながら歩むシャンティの「今」と「これから」をお届けします。



今号の表紙
アフガニスタンの子ども図書館にて
（2023年撮影）© 川畑嘉文

SHANTI vol.324 CONTENTS

4 特集
未来を育む活動地の今
45年の感謝と、シャンティのこれから

24 世界の絵本を読んでみよう
『ライオンになった犬』ラオス 2003年

26 世界の麺
ミャンマーの麺「オンノ・カウスェー」

27 令和6年能登半島地震 活動報告

28 つくり手さんのぬくもり
ラオスの生産者団体
シビライ村の刺繍生産者グループ/カマクラフト生産者グループ

29 絵本に込められた想い
『地球に暮らすぼくたちへ』

30 ファインダーをのぞいて
ゆけ！移動図書館車

31 お知らせ

32 道　シャンティ45周年を迎えて
ドゥアン・プラティーブ財団 上席顧問/シーカー・アジア財団 副理事長
秦 辰也



特集

45年の感謝と、シャンティのこれから

未来を育む活動地の今

1981年に誕生したシャンティは、多くの皆さまに支えられ、45年にわたり「教育」と「文化」を通じて、一人ひとりの未来を育む活動を続けてきました。歩みの中で、シャンティの活動は7カ国8地域へと広がり、子どもたちの学びを支える取り組みは、それぞれの地域の課題に寄り添いながら発展してきました。近年は、紛争や自然災害などに対応する緊急人道支援の機会が増えるとともに、日本国内でも外国ルーツの子どもと保護者への支援など、新たな社会課題に向き合う活動が始まっています。

本特集では、活動地の現況や力を入れている活動、現地職員の思いを通して、変化する社会の中で広がり続けるシャンティの活動と、その未来への歩みをご紹介します。

ごあいさつ

会長　若林 恭英

シャンティの前身「曹洞宗ボランティア会」が1981（昭和56）年に設立されてから今年で45年の節目を迎えることができました。この間、アジアの教育の機会に恵まれない子どもたちに、そのチャンスを広げる活動を継続できたのは、支援してくださる多くの皆さまのおかげがあってこそ、と改めて感謝の気持ちをお届けしたいと思います。現在、シャンティの活動地においても政治の混乱や紛争が起こっている地域もあり、けっして順調な活動ができているとは言えません。しかし、そこに学びを求める子どもたちがいる限り、信頼関係を築いた地域の人々との連携を通じ、学びを届けています。不透明感を増す国際情勢ではありますが、シャンティは「子どもたちの笑顔は平和への原動力」と信じ、これからも活動に取り組んでまいります。



会長
若林 恭英
Kyoei Wakabayashi

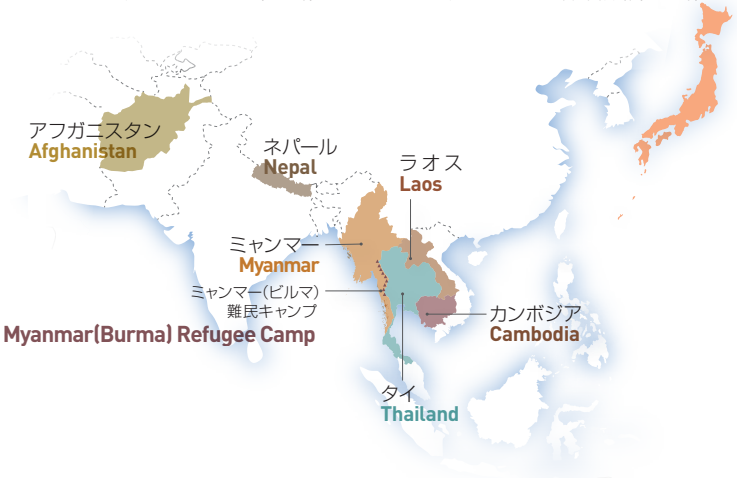
活動の原点



おはなしキャラバンによるカオイダン難民キャンプでの公演（1984年）



カオイダン難民キャンプでの常設図書館（1981年）









カンボジア
Cambodia



2023年にフン・セン前首相から代わり、長男のフン・マネット氏が新たな首相に就任しました。2025年は7月と12月にタイ国境にて武力衝突が起き、それぞれ同月に停戦合意がなされましたが、いまだ約2万人が避難先から帰還できていません（2026年7月時点）。タイとの陸路封鎖やそのほかの不安定要素から、物価高も懸念されています。また国内ではオンライン詐欺の取り締まりが強化され、多くの詐欺拠点が摘発されています。

▌力を入れている活動

2026年から、世界銀行が運営する日本社会開発基金の助成を受け、「テクノロジーを活用した幼児期のスキル育成事業」を開始しました。北西部3州60園を対象に、「遊びを通した学び」の推進に向け、デジタル技術を活用した教員支援、保護者の参画推進、幼稚園の建設・修繕、学校給食の提供に取り組みます。幼児教育・デジタル技術・栄養を組み合わせた新たなアプローチにより、子どもたちの心身の発達を支え、幼児教育へのアクセスと質の向上を目指します。



▌活動地の現況

カンボジア政府は5カ年の教育戦略計画に基づき、質の高い公平で包摂的な教育を受けられるようにすることを優先事項として、さまざまな施策に取り組んでいます。スポーツの振興やICTの活用、学校給食プログラムなどが進められている一方、国境付近を含む地方では基礎的なインフラさえ十分整備されておらず、老朽化し安全が懸念される木造校舎で授業を続ける学校もあります。経済的理由や授業についていけないなどの理由により、小学生のうちに7.5%の生徒が退学しています。学習環境改善のほか、地方の教員不足、教員による授業の質改善も喫緊の課題となっています。



職員の想い



シニア・コーディネーター兼
バッタンバン事務所フィールド
オフィス・マネージャー
トン・モンクラ
Ton Mongkrath

質の高い教育は人々の生活を変え、地域社会に永続的な変化をもたらすという信念は、シャンティでの活動を通じてさらに強まりました。2011年の入職以来、さまざまな活動に携わった経験から、持続可能な開発は、地域社会と連携し、現地の力を高めることから生まれると信じています。

最もやりがいを感じるのは、活動を支える献身的な教員や地域住民、好奇心いっぱいの子どもたちの姿を見ることです。彼らとの出会いを通じて、活動の大切さを実感しています。シャンティは私の人生の一部です。今日の活動が、より多くの子どもたちの明るい未来につながることを願っています。

現地代表のメッセージ



所長
菊池 礼乃
Ayano Kikuchi

シャンティの活動の原点は、故郷を離れざるを得なかった人々に寄り添いながら、教育・文化活動を通じて、人々が文化的アイデンティティを取り戻し、希望を持って生きる力を支えることにありました。その理念は今も変わりません。

カンボジアでは、かつて支援を受けた子どもたちが地域の担い手となり、学びを次の世代へつないでいます。その姿から、教育と文化には、人を育み、地域をつなぎ、平和な社会の土台を築く力があることを実感します。私も、先輩方が築いた現地の人々との信頼を受け継ぎ、人々が未来を切り拓く力を育む「触媒」として、より良い社会づくりに貢献していきたいと思います。











ラオス
Laos

2025年3月、党中央委員会と国会は政府組織機構改革を承認し、一部省庁の再編や統合が進められました。2026年初めには新たな政府機構が発足し、ソーンサイ・シーパンドーン首相が引き続き政権を担っています。一方、2026年3月以降は中東情勢の混乱による燃料不足や石油価格の高騰がラオスにも影響を及ぼし、政府機関では遠隔勤務や交代制出勤が導入され、一部の行政手続きに遅れが生じています。



▌力を入れている活動

ラオス北部の少数民族地域では、言語の壁や教育環境の不足により、遠隔地では複式学級や教員不足も重なり、小学校５年生で十分な読み書きができる児童は49%にとどまります。シャンティは、こうした教育課題の解決に向けて、学校校舎の建設、読書推進活動、ラオス語教育への支援、教員研修、村落教育開発委員会のワークショップなどを実施しています。地域の状況に寄り添いながら、子どもたちが安心して学び、可能性を広げられる教育環境づくりに、地域と共に取り組んでいます。



▌活動地の現況

ラオス北部の遠隔地・山岳地域では、多くの少数民族の子どもたちが、公用語であるラオス語を十分理解しないまま就学するため、授業内容の理解や学習の定着が課題となっています。また、校舎や教材、電気・水などの教育インフラや有資格教員が不足し、学習環境は十分とは言えません。さらに、中学校までの距離や交通手段の不足、家庭の経済的事情から進学を断念する子どもも少なくなく、地域間の教育格差が依然として大きな課題となっています。



職員の想い



読書推進活動プロジェクト
担当
ナリー
Naly

シャンティの使命や価値観に共感し、子どもたちや地域社会を支える活動に携われることを誇りに感じています。仕事を通じて多くの経験を積み、同僚との信頼関係も築いてきました。子どもたちの成長や学ぶ喜びに寄り添い、希望ある未来を築く力になれることが、私の大きなやりがいです。

現地代表のメッセージ



所長代行
玉利 清隆
Kiyotaka Tamari

ラオスは経済発展を遂げる一方、貧富の差が課題となっています。シャンティは２０１４年に事務所を北部ルアンパバーンへ移転し、より困難な状況にある人々への支援を進めてきました。今後も「すべての子どもに質の高い包摂的な教育を届ける」という目標の実現に向け、活動を続けていきます。

現地代表のメッセージ



副所長
プッタナリー（通称・オイ）
Phoutthanaly (Oy)

シャンティの活動を通じて、子どもたちの教育支援に携われることを光栄に思います。約20年間、「共に生き、共に学ぶ」という理念のもと、多くの学びと成長の機会を得てきました。これまで支えてくださった職員や支援者の皆さまに感謝し、今後も教育と社会の発展に貢献していきます。







ミャンマー（ビルマ）難民キャンプ

Myanmar(Burma) Refugee Camp



タイ・ミャンマー国境地帯では、1970年代以降、紛争を逃れた人々が避難生活を続けており、現在も約10万4,000人が９カ所の難民キャンプで暮らしています。長年の避難生活の中で学校や地域組織が築かれる一方、第三国定住の機会減少や人道支援資金の変化など、将来への課題も深刻化しています。タイ政府による就労許可など新たな動きも進む中、持続可能な解決策が求められています。

▌力を入れている活動

国境地域の変化に対応し、子どもや若者が将来の機会を広げられることを大事にしています。特に、進学や就労に必要となるタイ語学習を重視し、教材の整備やボランティアとの交流を通じた実践的な学習機会を提供する予定です。また、保護者の就労による子どもの孤立を防ぐため、学校や地域組織と連携し、子どもたちが安心して学び成長できる環境づくりにも取り組む予定です。さらに、地域の変化に寄り添いながら、持続的な教育支援の実現を目指します。



▌活動地の現況

難民キャンプでは、紛争や避難の影響を受けた子どもたちに教育機会を提供しています。地域主体の学校運営が続く一方、人道支援資金の減少による教材・教員支援の不足や、経験ある教員の流出による人材確保が課題となっています。また、就労機会の拡大により学習を中断する若者も増えており、子どもたちが将来の可能性を広げ、社会で自立して生きていくための継続的な教育支援が求められています。



職員の想い



図書館アシスタントコーディネーター
ソンポ・プランスポ
Somphop Phransupho

私が特にやりがいを感じているのは、図書館事業を通じて、十分な教育機会を得られない子どもたちの学びを支えることです。図書館は、子どもたちが安心して過ごし、本を通じて知識や新しい考えに触れる大切な場所となっています。また、教員にとっても授業を豊かにする教育資源となり、子どもたちの学習意欲を高める役割を果たしています。子どもたちが自信を持って学び、成長する姿や、地域と共に教育環境が向上していく様子を見ることが、私の大きな励みです。教育は未来を切り拓く力であり、一人ひとりの可能性を広げる大切な取り組みだと感じています。

現地代表のメッセージ



現地代表
ラウィルン・ジラポン
（通称・セイラー）
Chiraphorn Rawirung (Saylar)

25年間シャンティで働く中で、組織の成長や多くの人々の人生にもたらした変化を見届けてきました。子どもたちや社会的に弱い立場にある人々に希望と機会を届ける活動に携われたことを、誇りに感じています。職員、地域の人々、パートナー、支援者の皆さまと共に、教育や読書活動を通じて地域社会の発展に取り組んできました。

今、私たちは新たな課題に直面していますが、教育が未来を切り拓く力であるという信念は変わりません。45年の歩みに感謝し、これからも皆さまと共に希望ある未来を築いていきます。











アフガニスタン
Afghanistan

アフガニスタンでは2021年以降、暫定政権による統治が続き、女性や女子の教育・就労・社会参加に厳しい制限が課されています。さらに、国際支援の縮小やパキスタン、イランからの帰還民の増加により人道状況は悪化しています。帰還した子どもたちの中には教育環境になじめないケースも多く、特に女性や子どもへの教育や生活支援の必要性が一層高まっています。



▌力を入れている活動

地区公共図書館が子どもや若者にとって安全で利用しやすい学びの場となるよう支援しています。図書館環境の整備や読書活動の推進を通じて、子どもたちの読解力や学ぶ意欲、生涯にわたる学びの基盤を育んでいます。
また、児童保護施設では、孤児や脆弱な立場にある子どもたちへ図書館サービスや読み聞かせ、心理社会的支援を提供し、自信と学ぶ喜びを育んでいます。さらに、水・衛生設備を改善し、安全な水と衛生環境を整えることで、子どもたちの健康で安心できる生活を支えています。



▌活動地の現況

アフガニスタン東部では、教育と人道支援の両面で厳しい状況が続いています。女子中等教育の停止やコミュニティ・ベース教育の縮小により、特に遠隔地の子どもたちの学びの機会が失われています。
さらに、パキスタンからの帰還民の増加や2025年の地震により学校や地域への負担が増し、人道支援資金の不足も重なり教育環境は一層厳しさを増しています。多くの子どもが教育の中断や避難生活を経験しており、継続的な支援が求められています。



職員の想い



プロジェクト・マネージャー
ラフィウラ・シャプール
Rafiullah Shahpoor

シャンティは、教育を受ける機会が限られた子どもたちに、図書館活動や代替教育を通じて学びの場を届けています。また、地震や帰還民の増加など緊急時には移動図書館を実施し、本や読み聞かせ、学習活動、心理社会的支援を通じて子どもたちの心と学びを支えています。困難な状況の中でも、子どもたちが笑顔で学び、本に親しみ、自信を取り戻していく姿を見ることが、私の大きなやりがいです。一冊の本との出会いが子どもたちの可能性を広げ、学び続ける力を育むことを日々実感しています。これからも地域や学校、同僚と協力し、すべての子どもが安心して学び、希望を持って未来を切り拓ける環境づくりに貢献していきたいと思います。

現地代表のメッセージ



副所長
ジャビット・サフィ
Jawid Safi

シャンティは世界各地の困難な状況にある人々や地域社会に寄り添い、希望と変化を届けてきました。私たちもその使命の一翼を担えることを誇りに思うとともに、東京事務所、理事会、ご支援者、パートナーの皆さまからの信頼とご支援に深く感謝申し上げます。
アフガニスタンでは、女子教育への制限、貧困、自然災害、避難民の増加など、多くの課題が続いています。こうした状況の中、アフガニスタン事務所は、子ども図書館や代替教育、学校・図書館環境の整備、緊急支援を通じて、子どもたちと地域社会に寄り添う活動を続けています。
45年の節目にあたり、私たちは思いやりと誠実さを胸に、これからも人々の希望を育み、子どもたちと地域社会のより良い未来のために歩み続ける決意を新たにしています。







ミャンマー
Myanmar



ミャンマーでは2021年以降の政情不安や武力衝突の長期化により、人々の生活環境が厳しい状況に置かれています。加えて、経済の停滞や物価上昇が続き、教育や医療をはじめとする基本的な社会サービスへのアクセスも制限されています。紛争や避難の影響を受けている地域では、多くの住民や子どもが不安定な生活を余儀なくされています。また、2025年に発生した大規模地震の影響により、一部地域では学校や住居などのインフラ被害も発生し、人道支援および復興支援のニーズが引き続き高い状況です。

▌力を入れている活動

緊急人道支援と教育支援の両立に力を入れています。紛争や自然災害の影響により、多くの地域で安全な生活環境や学習環境の確保が課題となっており、特に子どもたちへの継続的な教育支援の必要性が高まっています。地震の影響を受けた学校の修繕や学習スペースの整備を進めるとともに、学校図書館活動や移動図書館活動を通じた支援にも取り組んでいます。子どもたちが安心して学べる環境づくりと、教員が多様な教材を活用した授業を実践できる体制づくりを進め、厳しい状況下でも学びの継続を支えています。



▌活動地の現況

ミャンマーでは、政情不安や武力衝突、自然災害の影響により、多くの地域で教育環境の悪化が続いています。活動地のカレン州や西バゴー地域などでは、学校施設や学習環境の損傷、教材不足、教員の負担増加などが課題となっています。また、子どもたちが読書に触れる機会や学習資源へのアクセスも限られており、学習意欲や学習習慣の形成にも影響を与えています。さらに、紛争や避難生活を経験した子どもたちにとっては、安全で安心して過ごせる学びの場の確保も重要な課題となっており、図書館活動や移動図書館などを通じて、子どもたちが学び続けられる環境づくりに取り組んでいます。



職員の想い



シニア・コーディネーター
テッ・テッ・ハニー
Thet Thet Honey

私はシャンティで働いていることに大きな誇りを感じています。教育支援は、子どもたちの未来だけでなく、国の未来を形づくる重要な取り組みだと考えています。シャンティの活動の魅力は、支援を届けるだけでなく、現地職員と支援者をつなぎ、人々に希望を届けていることです。政治危機下にある地域でも活動を続けることで、「あなたたちは忘れられていない」というメッセージを伝えています。

働く母親として限られた時間をこの仕事に費やすことには大きな意義を感じています。すぐに成果が見えなくても、国の未来につながる種を蒔(ま)いているという実感が、私の日々の原動力となっています。

現地代表のメッセージ



所長
中原 亜紀
Aki Nakahara

世界では紛争や自然災害などさまざまな課題が深刻化し、緊急人道支援の重要性はますます高まっています。一方で、子どもたちは社会や国の未来を担う存在であり、今私たちが直面する課題を解決していくのも次の世代です。だからこそ、どのような状況下でも教育支援を継続することが重要だと考えています。厳しい環境や組織運営上の制約がある中でも活動を続けられているのは、「共に生き、共に学ぶことのできる平和（シャンティ）な社会」の実現を目指してきた組織の姿勢があるからだと思います。現場で子どもたちの未来に少しでも貢献できることに感謝するとともに、45周年を迎えた今後も、子どもたちの学びを支え続ける組織であり続けることを願っています。







ネパール
Nepal



ネパールでは昨年、若者を中心とした大規模な反政府デモにより当時のオリ政権が退陣する政変が起きました。今年3月の総選挙では、既存政治への不満を背景に新興政党が大勝。新政権が樹立されました。伝統的な政治からの転換に期待が高まる一方、国内では山間部や低カースト層への開発の遅れ、深刻な経済格差や高い失業率に直面しています。2026年8月､氷河崩壊による土石流・洪水が発生し、道路、橋などのインフラに甚大な被害が出たほか、多数にのぼる人的被害となりました。

▌力を入れている活動

2026年から「少数民族地域における基礎教育改善事業」を開始しました。山岳地域のコミュニティ・スクール（公立校）における就学前および低学年児童の教育の質の改善を目指し、校舎建設や教室・衛生環境の改善、読み聞かせの推進、保護者への啓発活動などを実施します。学校や地域の方々と協力しつつ、子どもたちが「楽しい！」「行きたい！」と思える学校づくりを進めていきたいと思います。



▌活動地の現況

ネパールでは基礎教育へのアクセスは改善しているものの、５人に１人が基礎教育を修了しておらず、特に１年生の退学や留年が深刻です。高学年になっても基礎的な読み書きに課題がある子どもも少なくありません。公立校の質の低さへの不満から、比較的裕福な家庭の子どもが私立校に流れており、教育格差の拡大が懸念されています。幼児教育ではジェンダー格差が深刻で、女児の入園率は45%にとどまります。これは公立の幼児教育が未整備な中、親が男児を優先して私立の幼児教育クラスに通わせる傾向によるものです。



職員の想い



プロジェクト・マネージャー
ガネシュ・クマー・ラマ
Ganesh Kumar Lama

シャンティのアプローチで特に好きなのが、地域の人々と「共に」歩む姿勢です。図書館や識字、職業訓練、先住民族の文化を踏まえた教科書づくりなどの活動で、住民が自発的に取り組みを進め、学びを通じて自信を深めていく姿に喜びを感じます。これからも次世代のために持続可能な変化を生み出していきたいと思います。



現地代表のメッセージ



所長
萩原 宏子
Hiroko Hagihara

いつのまにか「戦争が当たり前」になり、世界が壊れていくような怖さを感じています。シャンティが活動を始めた45年前と比べ、世界が良い方向に向かっているとは言えないかもしれません。だからこそ、私たちが大切にしてきた「共に生き、共に学ぶ」姿勢は、ますます重要になっていると感じます。「こういう世界であってほしい」という願いを現実に落とし込んでいくのが私たちの仕事です。足元の社会課題を地道に解決していくこと、その際に民族や国籍などの違いを超えて協力し合うことが平和な社会の礎になると信じ、これからも活動を続けていきたいと思います。









緊急人道支援

2026年4月から緊急人道支援課が設立され、国内外の災害発生後に活動を実施しています。2026年6月にフィリピンで発生した地震では、ミンダナオ島南部の一部地域で学校や住宅、公共施設が被災し、子どもたちの学習環境にも大きな影響が生じました。フィリピン南部のミンダナオ島は、多様な民族や文化が共存する地域です。また、フィリピンは地震や台風、洪水、地すべりなどの自然災害が頻発する国として知られています。現在は地方自治体や教育省、地域住民が連携しながら復旧を進めており、シャンティも現地パートナーと協力し支援を行いました。

▌力を入れている活動

シャンティは、緊急人道支援においても、子どもたちの学びを守ることを大切にしています。被災直後は食料や住まいなど、さまざまな支援が必要となりますが、子どもたちが安心して過ごせる場や学ぶ機会を取り戻すことも重要です。今回のミンダナオ島での支援では、現地の学校や教育局への聞き取りをもとに、被害の大きかった学校へ学用品キットや教具・教材を提供するとともに、教員が子どもたちの心のケア活動に使用するためのキットを配布しました。



▌活動地の現況

ミンダナオ島南部を襲った地震により、多くの学校が被害を受けました。活動地では校舎の損壊により十分な学習環境を確保できない学校が複数見られ、ある学校ではすべての教室が使用できなくなりました。一方で、学校や教育局はワークシートの配布やオンライン授業などを通じて学習の継続に努めています。しかし、余震への不安から登校をためらう保護者や子どもも多く、学習の遅れや心理的負担が課題となりました。今回の地震では、学校再開だけでなく、子どもたちが安心して学べる環境づくりの重要性が改めて浮き彫りとなりました。



職員の想い



海外緊急人道支援担当
水木 茉里奈
Marina Mizuki

大学生のころ、絵本の翻訳ボランティアとして「絵本を届ける運動」に参加したことが、シャンティとの出会いでした。当時から緊急下の教育や平和構築に関心を持ち、紛争後のカンボジアの教育を学ぶためNGOで活動する一方、識字や教育に長年取り組むシャンティに憧れを抱いていました。やがて緊急人道支援の求人を見つけ、縁を感じて応募しました。

紛争や災害によって学ぶ機会を奪われた人々が、それでも教育に希望を見いだし、学び続けようとしています。シャンティの活動を通じて、教育が人々の尊厳や日常を取り戻す力となり、未来への希望につながるよう、必要な支援を届けていきたいと考えています。

課長のメッセージ

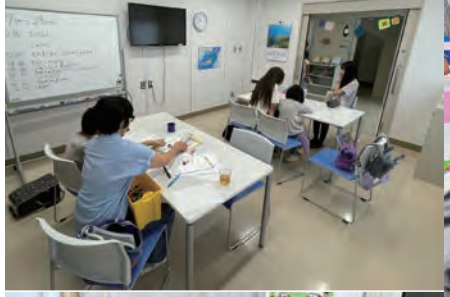


課長
石塚 咲
Saki Ishizuka

シャンティは45年間、アジア各地で子どもたちの学びを支える活動を続けてきました。今回のフィリピン地震支援では、被災した学校や地域を訪問し、改めて学校が子どもたちにとって学びの場であると同時に、子どもたちが日常を取り戻していく上で重要な役割を果たしていることを感じました。気候変動による自然災害や紛争などにより、学びの継続が困難になる状況が各地で見られます。こうした状況の中、子どもたちを取り巻く環境やニーズに目を向け、支援を届けていくことの大切さを感じています。これからも、困難な状況に置かれた人々が安心と希望を取り戻せるよう、各国で活動を続けていきたいと思います。











国内事業課

コロナ禍を契機に、外国人支援のプラットフォーム「としまる」を2021年に設立し、生活・法律・通訳支援を実施しています。2024年には練馬区でも「ねりんく」を開始し、相談会やフードパントリーを通じて支援の輪を広げています。2026年からは豊島区からの受託事業として多文化キッズサロンを開設。豊島区初の外国ルーツの子どもと保護者の居場所として、専門スタッフと共に活動を行っています。

力を入れている活動

生活のこと、在留資格のことなど困りごとの相談を受け、食料をお渡しする包括的支援事業は2021年から2026年6月末まで72回開催し、1,996人が参加しました。参加者のうち46%がミャンマー国籍、27%がネパール国籍の方で、在留資格に関する相談が最も多い状況です。

多文化キッズ事業では、保護者や学校関係者から「日本語を話すことができていても、教科学習についていけない」など、2026年1月以降8月末まで、417件の相談を受けてきました。年齢や国籍にかかわらず、困りごとに寄り添い活動を続けます。



活動地の現況

日本で暮らす外国人は年々増加し、2025年末の在留外国人数は初めて400万人を超え、約412万人となりました。また、外国人労働者数も約257万人と過去最多を更新し、日本社会を支える重要な存在となっています。一方で、受け入れ体制の整備は十分とはいえません。就労、教育、言語、住居、在留資格、医療など幅広い分野で課題を抱え、日本語教育の担い手不足や外国ルーツの子どもの学習支援、自治体間の支援格差も深刻化しています。多文化共生社会の実現に向け、包括的な支援体制の構築が急務となっています。



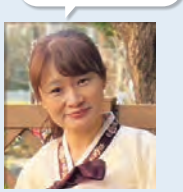
職員の想い



多文化キッズコーディネーター
久保田 芳恵
Yoshie Kubota

私は、都内の小学校で教員をしていました。ここ数年、外国にルーツを持つ児童が大きく増えている一方で、学校や地域の対応が十分に追いついていないと感じていました。多文化キッズサロンでは、日本語や教科の学習を支援しています。たくさんの子どもたちとつながり、一人ひとりの学校生活がより豊かになるよう支えていきたいです。

職員の想い



多文化キッズコーディネーター
朴 梨沙
Risa Park

外国ルーツの子どもたちが自分らしく生きいきと日本で暮らしていくためには、子どものサポートはもちろん、ご家族みなさんのサポートが不可欠です。そこには、在留資格、住まい、行政の各種手続き、心の寄り添いなど多岐にわたります。「としまる」で培ってきた経験や人脈を学校や地域とつなぎ、より有機的な支援を実現すべく尽力していきます！

課長メッセージ



課長
鈴木 晶子
Akiko Suzuki

活動を通して、外国ルーツの子どもたちが、日本での暮らしの中で不安や寂しさ、孤独を感じている様子を見聞きします。また、保護者も言葉が通じない不安や制度が理解できないもどかしさなど、文化や生活習慣の違いによる戸惑い、孤独や孤立を感じています。子どもたちが「楽しい」「もっと学びたい」と思える時間を積み重ね、一人ひとりが自分らしい人生を選択できるよう支えていきたいと思います。

事務局長あいさつ

45年の歩み、その先へ——本と学びがつなぐ平和と共生



令和8年熊本地震をはじめ、日本各地での豪雨、ネパールやタイ、アメリカなど海外でも多発する水害により被災された皆さまに、心よりお見舞い申し上げます。また、犠牲となられた方々に深く哀悼の意を表します。

シャンティがカンボジア難民支援を始めてから45年。私たちは、教育と文化の力を信じ、困難の中にある子どもたちや地域の人々と歩みを重ねてきました。平和な社会の実現への道のりは、前進と後退を繰り返しながら今も続いています。

今日、世界では紛争や災害、気候変動、貧困、格差など、一国だけでは解決できない課題が広がっています。国や立場の違いを越えて、人が人として大切にされる社会を願い、分断を越えて対話し、支え合うことが、これからますます求められます。

同時に、私たちの足元にある地域社会にも目を向ける必要があります。国内の災害支援では、平時からのつながりを育み、地域が抱える課題を見つめながら防災・減災に取り組み、いざという時に支え合える関係を育てること。それは、シャンティが大切にしてきた「共に生きる」という姿勢そのものです。

45年にわたる皆さまのご支援により、活動地では多くの子どもたちが学びの機会を得て、新たな担い手が育ってきました。かつて支えられた人々が、今度は自らの地域や社会を支える姿も生まれています。教育支援は一時的な助けにとどまらず、人が自分の力を取り戻し、未来を切り拓く力へとつながっています。

また、長年続けてきた絵本を中心とした活動も、私たちの歩みを支えてきました。絵本は国境や言葉、文化の違いを越えて、子どもたちの心に安心と喜びを届けます。そして、絵本に関わる人々の間に、静かで確かなつながりを生み出してきました。その小さな積み重ねこそが、平和を育む土台になると信じています。

これからのシャンティには、45年の中で培ってきた変わらない信念を守りながら、時代の変化に応じて柔軟に進むことが求められています。危機の中にある人々、取り残されやすい人々の声に耳を澄まし、本を通した教育文化支援を通じて、一人ひとりの生きる力を育む。その使命を、次の世代へとつないでいきます。

世界が分断へと向かいかねない今だからこそ、私たちは、身近な誰かを思いやる心と、遠くに生きる誰かの痛みを想像する力を、これからも大切にしてまいります。

シャンティは、これまで歩みを支えてくださったすべての皆さまへの深い感謝を胸に、これからも本と学びの力を信じ、すべての人が尊厳をもって生きられる、平和で共生的な社会の実現を目指して歩み続けます。



事務局長
山本英里
Eri Yamamoto

中期事業計画（2025年～2030年）

1981年の設立以来、団体が培ってきた幅広いネットワークを拡大・深化し、教育・文化活動を推進することで、複雑化・多様化する人道危機や社会課題への取り組みを強化します。

1 危機下にある人々、取り残された人々の生きる力を育む教育・文化支援を拡充します

- 緊急人道支援および危機下での教育・文化・図書館事業の強化
- 対象地域の文化を尊重し、教育・文化・図書館事業を通じた開発事業を推進
- 共生社会を実現するための国境を越えた事業を推進
- 日本国内における緊急人道支援および防災・減災への対応を推進
- 人道・開発・平和の連携を念頭に、質の高い事業実施のための基盤整備、ナレッジ・マネジメントを推進すると共に、成果の発信を行う

2 取り残された人々の権利の推進ならびに平和・共生社会実現のためのネットワーク連携・政策提言を強化します

- 連携ネットワークに積極的に参画し、社会課題の解決に貢献
- 活動地における連携ネットワークへの参画を強化
- 政策提言を行うための基盤整備

3 国内外における団体認知の拡大により、必要な資金を調達します

- 国内外における団体の認知拡大
- イベント・ワークショップの実施および開発教育教材の作成を通じて、市民が参加しやすい環境づくり・既存支援者との関係構築
- 新たな収益事業の構築を含む、財源の多様化と拡充

4 設立理念を大切にし、必要とされる事業が安定して継続できることを目指した組織構造を再構築します

- 事務所機能と役割の再構築
- 内部統制の強化
- 組織の理念継承のための基盤整備
- 組織の国際化を目的とした基盤整備と管理業務の効率化
- 市民社会活動を実践し貢献できる、高い専門性を持った人材を育成



ライオンになった犬

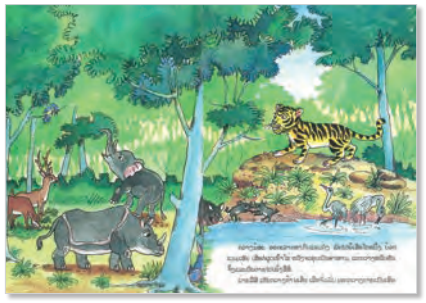
1



ずっと昔、犬をつれた猟師がいました。犬はウサギを追って森の中を走り回っているうちに、仙人の家を見つけました。ウサギを結局捕まえられず疲れていた犬は、その家の足洗い場の水をごくごく飲むと、すやすやと寝入ってしまいました。

仙人は犬を見つけると、かわいそうに思いごはんを与えました。すると、おなかがいっぱいになった犬は、猟師の元に帰るのをやめてしまいました。

2



「修行中の仙人が犬を飼うのは良いことではない。狩猟犬を飼っていたら、村人も疑うだろう。仏教の戒律を犯すことにもなる」

そこで仙人は呪文を唱え、犬を子鹿に変えてしまいました。

子鹿になった犬が森を歩いていると、目の前にトラが出現。子鹿は危険を察し、急いで仙人の家へ帰りました。仙人は、子鹿がトラから逃げてきたことが分かると、また呪文で子鹿をトラに変えました。

3



トラになった犬は、今度は大きなライオンに襲われそうになります。トラは、また仙人の家にあわてて逃げ帰り、それをみた仙人が、またまた呪文を唱えると、今度はライオンの姿に変わりました。

ライオンになった犬がのんびり森を散歩していると、メスのライオンに出会います。2頭のライオンはお互いに好きになり、メスのライオンの両親に結婚させてほしいと頼みました。

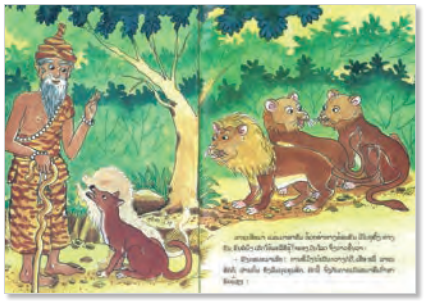
4



メスライオンの両親は、「お前が娘を心から愛していることは分かった。お前をもっとよく知るために、お前の家へ行きお前の父上母上にお会いするとしよう」

ライオンは、すっかり困ってしまいます。「もし仙人が本当のことを話したら、おれの顔はまるつぶれだ。あのメスライオンとも結婚できないだろう。よし、それならいっそ仙人をたべてしまえ」

5



ライオンは、仙人の家へ先回りすると、牙をむき出し、全身の毛を逆立てます。それをみた仙人は、ライオンの考えを見破ります。

「犬よ、わしはかわいそうに思ってお前を子鹿にもトラにも、そしてライオンにもしてやったのに、お前はその恩を忘れたのか。それならば、もとの犬に戻るがいい」

すると、ライオンは一瞬で犬の姿に戻ってしまいました。

6



犬はメスライオンや森の動物たちからも笑われ、あまりの恥ずかしさに猟師の家へ帰っていきました。そして二度とこの森には姿を現しませんでした。

令和6年 能登半島地震 活動報告


震災後、初開催の門前祭

震災から2年半がたち、能登半島では自宅を失った住民向けの災害公営住宅が完成した地区も出てきました。輪島市では、約1、200戸の整備が進められ、入居開始は令和10年ごろを予定しています。多くの方が恒久的な住まいを心待ちにする中、地域によっては入居に伴い離郷しなければならない方もいます。地域が主体となってさまざまな課題に向き合う中、私たちも関心を持ち、心を寄せていきたいです。

移動図書館活動の報告

移動図書館活動の開始から2年がたち、これまで306回運行し、延べ2,606人が利用、4,062冊を貸し出しました。また、120人が移動図書館をきっかけに新たな図書館の利用者となり、地域に潜在的なニーズがあったこともうかがえます。毎月顔を合わせる利用者さんも多く、年月とともに思い出が積み重なります。

震災後は出張・移動・訪問型サービスの需要が高まる中、移動図書館も本を届けるとともに、人と人をつなぐ居場所として親しまれる存在であり続けたいと思います。

保育園での移動図書館活動の報告

2026年4月から保育所4園への運行を開始し、168人の園児に毎月本を貸し出しているほか、図書館員による絵本の読み聞かせも好評です。

震災後は図書館の解体や移設に伴い、子どもたちが図書館を利用する機会が減っていました。移動図書館をきっかけに初めて図書館の本に触れる子どもも多く、たくさんの本の中から自分で選ぶ体験を楽しんでいます。一度に70冊以上を貸し出すこともあり、先生方からも読み聞かせ用の大型絵本や紙芝居、季節の行事に合わせた本のリクエストを数多くいただいています。

メンタルが強くなるような本がいい。大相撲とかスポーツ選手の言葉を聞くと強くなれるのよ（70代女性）


図書館員とシャンティ職員


本を手に取る利用者©川畑嘉文


保育園を訪問する移動図書館車


読み聞かせする図書館員





世界の麺

シャンティの活動地にはユニークな麺料理がたくさんあります。お年寄りから子どもたちまで年齢や世代を問わず愛される麺料理を、シャンティの職員がご紹介します。

ココナッツミルクスープでマイルドなミャンマー伝統麺

オンノ・カウスェーは、ココナッツミルクのコクと柔らかく煮込んだ鶏肉の、マイルドで心温まる味わいが魅力です。オンノはココナッツ、カウスェーは麺を意味します。ミャンマーでは年齢問わず多くの人に愛されている伝統的な麺料理で、朝食や昼食によく食べられています。

スープのつくり方は、すりおろしたニンニク、タマネギ、ショウガ、ターメリックパウダーを炒めて、香りが出たところで食べやすい大きさに切った鶏肉を香ばしく焼きます。ペースト状にしたひよこ豆粉を少し加えて火を通し、重たくなったらココナッツミルク、エシャロット（小さいタマネギの仲間）、鶏だしスープ、調味料を加えて煮込みます。味付けは塩、魚醤、砂糖、シーズニングパウダーです。

温かいスープに、ゆでた小麦麺とお好みのトッピングを盛りつけてできあがりです。トッピングには、魚のすり身を揚げたもの、パリパリの揚げ麺、スライスしたゆで卵、パクチー、ライム、チリパウダーなどがあります。

オンノ・カウスェーは、喫茶店、屋台、伝統料理店、レストラン、ホテルなどいろいろな場所で食べることができ、約265円～760円（3,500チャット～10,000チャット）です。



ミャンマーの麺
［オンノ・カウスェー］
အုန်းနို့ခေါက်ဆွဲ



ミャンマー事務所
ナイン・ティリ・ザウさん

ヤンゴン事務所で総務経理アシスタントとして働いています。

つくり手さんのぬくもり

CRAFT AID

クラフトエイドはアジア各国で民族独自の伝統や技術を生かした商品づくりに取り組んできました。このページでは民族の手仕事とスタッフおすすめの商品を紹介します。





［つくり手さんの紹介］

ラオスの生産者団体

シビライ村の刺繍生産者グループ
カマクラフト生産者グループ

ラオスの生産者団体を訪問しました。ビエンチャン近郊の村々では、多くの人が農業を中心に暮らしています。ゴム栽培が主要な収入源となる一方、農閑期には刺繍が貴重な現金収入の機会となっています。特に子どもの新学期を前に学用品の購入が必要となる時期には、刺繍の仕事を希望する家庭が増えるそうです。また、高齢者や働きに出ることが難しい人にとっても、自宅で取り組める刺繍は大切な仕事になっています。

シャンティが長年協力しているカマクラフトの村では、若い世代にも刺繍技術が受け継がれています。最近は新しいアーティストが加わり、一枚一枚の布に手描きで原画を描いています。手仕事ならではの温かみや個性は、こうした丁寧な工程から生まれています。刺繍を通じて受け継がれる技術と暮らしの知恵が、今日も村の中で大切に守られています。



スタッフのおすすめ商品

ラオスの森ランチトート

ラオスの森の動物たちが手刺繍で施されたランチトートです。一見同じように見える商品の刺繍も、世代交代とともに少しずつデザインや色合いが変化しています。先輩たちの刺繍を見よう見まねで学んだ若いつくり手たちが、経験を重ねる中で自分らしい表現を加え、手仕事ならではの個性を育んでいます。

クラフトエイドのオンラインストアから商品をご購入いただけます。

絵本に込められた想い

絵本を届ける運動

子どもたちの年齢や文化的背景に応じて必要な絵本は異なり、児童書の書店員、図書館員、出版社から、おすすめを教えてもらっています。それぞれの絵本に込められた想いを紹介します。

等身大で語りかける、人権の絵本

みんな赤ちゃんでした。ぼくたちは、等しく生まれました。でも、世の中にはさまざまな人が暮らしていて、思いもさまざまです。村の塀から国境ができていくイメージも交えながら、人権について語りかける絵本です。

中川さんから、「以前にこんな文を書いたのだけど、絵本にできないかな」と相談をいただきました。この文が最初に書かれた20年ほど前より世界はさらに不安定になり、残念ながら「どうして争いは起こるのか」と話す機会は、子どもたちのまわりでも増えていると思います。

中川さんは、認め合うことを「それが、むずかしい。なかなかむずかしい」と素直に言いつつも「千載一遇、ここに居合わせたのだから、尊重し合おうよ。尊敬し合おうよ。許し合おうよ」と語りかけています。ぜひ、さまざまな立場、年齢の方に読んでほしいと思います。



『地球に暮らす ぼくたちへ』

作：中川ひろたか
絵：松田奈那子
出版社：アリス館



出版社紹介：

山口郁子さん
アリス館

小社はおかげさまで45周年をむかえました。子どもの本は子どもたちにとって、たのしく、おもしろく、そして心の糧となるものです。世界を見つめ、表現する子どもの本には、世代を越えた普遍的な価値があると信じ、豊かな感受性や想像力を育む本をつくり続けます。



言語・テーマ

たった一つの地球に等しくある私たちの命。互いを認め尊敬し合える世の中を願い、2027年度にビルマ語とカレン語で取り組みます。

参加のお申し込みはこちらから

シャンティからのお知らせ

シャンティ設立45周年イベント『活動地の最前線から、未来へ。―シャンティの平和への思い』

2026年はシャンティ設立から45年を迎えます。今年のシャンティの日(12月10日)を記念し、活動地の最前線から現状と課題、そして未来への展望を直接お伝えします。これまでの実践を振り返りながら、次の時代に向けて何ができるのかを、共に考えるイベントを開催します。詳細は随時シャンティ公式ウェブサイトにてお知らせいたします。

▶日　　時：2026 年 12 月 9 日 (水)
▶参 加 費：無料
▶開催形式：オンライン配信

2026年度定時社員総会・イベントのお知らせ

2026 年度総会を下記の通り開催いたします。総会で議決権のある社員会員の皆さまには、3 月初旬に資料をお送りします。総会後にイベントを予定しています。

▶日 時：2027年3月26日(金)

遺産・相続財産寄付を受け付けています

遺贈とは、ご自身が遺される財産や、相続された財産の一部を「未来を担う子どもたち」のために託していただくご寄付です。
「遺言」によってご自身が遺される場合だけでなく、ご遺族が故人の遺志を受けて相続財産を役立てたいとお申し出いただくご寄付や、お香典・お花料からのご寄付など、「遺贈」にはさまざまなかたちがございます。
シャンティでは、遺贈・相続財産寄付に関するパンフレットをご希望の方にお送りしております。個別のご相談もお受けしておりますので、お気軽にお問い合わせください。



●お問合せ
広報・リレーションズ課
電話：03-6457-4585

人事のお知らせ

■入　職

木村 沙弥香
事業サポート課 民間資金対応担当(パートタイム職員)　2026年4月1日付

水木 茉里奈
国内外緊急人道支援課 海外緊急人道支援担当　2026年4月6日付

ムカルジー 杏奈
広報・リレーションズ課 絵本を届ける運動担当(パートタイム職員)　2026年4月23日付

平 瑠美　事業サポート課 事業調整担当　2026年5月11日付

鷲澤 七泉
緊急人道支援課 緊急人道支援アシスタント　2026年5月11日付

アン ジンヒ
緊急人道支援課 緊急人道支援アシスタント(パートタイム職員)　2026年5月11日付

佐藤 光　総務人事課 総務労務担当　2026年6月1日付

千本木 恵美子　経理課 課長補佐　2026年7月1日付

御木 賢成　緊急人道支援課 国内緊急人道支援担当　2026年8月18日付

■退　職

岩永 伸一　経理課 チーフ　2026年6月30日付

■異　動

鈴木 晶子
広報シニアマネージャー兼国内事業課 課長
⇦コーポレート・コミュニケーションシニアマネージャー　2026年4月1日付

石塚 咲
緊急人道支援課 課長⇦国内事業課 課長　2026年4月1日付

中井 康博
緊急人道支援課 国内緊急人道支援担当
⇦国内事業課 国内事業担当　2026年4月1日付

■昇　格

玉利 清隆
事務局 次長⇦運営推進シニアマネージャー　2026年4月1日付

矢加部 咲
事業サポート課 課長補佐⇦事業サポート課 チーフ　2026年4月1日付

■休　職

榎本 未希　総務人事課 総務庶務担当　2026年5月17日付

■復　職

木下 愛子　広報・リレーションズ課 絵本を届ける運動担当　2026年4月23日付

シャンティ 2026年11月号(通巻324号)　2026年11月1日発行

発 行 人：若林恭英
発 行 所：公益社団法人シャンティ国際ボランティア会
〒160-0015東京都新宿区大京町31 慈母会館2・3階
TEL 03-5360-1233　FAX 03-5360-1220
WEB：www.sva.or.jp　E-Mail：info@sva.or.jp
編 集 人：鈴木晶子
編集・制作：株式会社文化工房
イラスト：きよはらえみこ
印　　刷：株式会社サンエー印刷

FSC ミックス 紙 | 責任ある森林管理を支えています FSC® C004858
リサイクル適性Ⓐ この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。
VOC FREE
当会へのご寄付は、所得税、住民税、および法人税、相続税の優遇措置が受けられます。
©Shanti Volunteer Association.
「シャンティ」は、FSC®森林認証紙にノンVOCインキ(石油系溶剤0%)で印刷しています。

Shanti's Photo Log
ファインダーをのぞいて



川畑 嘉文(フォトジャーナリスト)
Yoshifumi KAWABATA

ニューヨークの雑誌社勤務時代に9.11を経験し、記者職を捨て写真の道に進むことを決意。2002年、会社を退職しタリバン政権崩壊後のアフガニスタンを訪れ取材を行った。2005年フリーランスのフォトジャーナリストとなり、世界中の難民キャンプや貧困地域、自然災害の被災地で取材を行い、雑誌や新聞などに写真と原稿を寄稿している。



日本海の大海原を背景にベストショット

青く澄み渡る空と光きらめく凪の海。そんな景色の中を色彩豊かな移動図書館車が走っていく。初めてそのイラストを見た時、思わず口にしました。「これを実写化したい！」

3月にシャンティから輪島市立図書館へ寄贈された移動図書館車。しっかりと記録しておきたいところですが、条件は厳しいです。撮影日は1日のみだから天気が心配。事前に撮影地の選定をお願いし、天気予報を入念に確認。

7月16日、撮影日の朝はあいにくの雨でしたが、予報通り光浦町に着く午後には突き抜ける青空となりました。高台に上り三脚を立て、ほかの車に迷惑がかからないよう確認して移動図書館車を「Go！」

皆さまのご尽力により、イラストに負けない良い写真が撮れました。ありがとうございました！



❶沿岸を走る移動図書館車
❷撮影中の筆者(鈴木晶子さん撮影)
❸「本は気分転換には最適」と話した利用者のみなさん